

市長が行く

No.100

茂原市の財政 10年前と現在

茂原市長 田中豊彦



このコラムも今回で1000回目を迎えることとなりました。そこで今回は、私が市長に就任してからの10年間を振り返ってみたいと思います。

まず、市長就任当時ですが、

二度の合併協議が破たんし、その原因として茂原市の多額の借金があげられていました。元東京都知事の猪瀬氏が、「茂原は第二の夕張になる」と言ったことは有名ですが、確かに土地開発公社を使った隠れ借金が約200億円、またそのほかの借金も含めると約800億円にも上り、もうこれ以上新たな借金はできない状況で、なおかつ財政調整基金（いざという時のための貯金）は2〜3億円しかありませんでした。

このように悪い状況の市は千葉県下でもほかになく、どうしたらこの難局を抜け出すことができるか、必死に考え

る毎日でしたが、それでも教育現場の荒廃を目の当たりにし、厳しい財政の中でやりくりしながら（とても不安でしたが）、耐震化や改修を行いました。

またさらに、日立や東芝が撤退し、税収上でも大きな不安を抱えることとなり、まさに泣きつ面に蜂とはこのことかと歯軋りする思いでした。しかし、この茂原市をつぶすわけにはいきません。そのような状況でも、少しでも前向き、借金を減らす施策を考え、一つ一つ根気よく実行しようと考えました。

まずは、多年にわたって問題となっていた給食公社の民営化、それからひめはるの里の民間委託、土地開発公社の解散、石神地区の民間による開発（ソーラー事業）などにより、かなり支出が抑えられました。また、一方で、IP

S（現在のジャパンディスプレイ）や沢井製薬の新工場の誘致などに成功したことで、日立や東芝が抜けた穴を埋めることができました。

そういったことが功を奏し、徐々に財政は健全化へと進んできています。市の職員たちも本当に良くやってくれたと思います。今現在、約800億円あった借金は約550億円に減り、2〜3億円しかなくなった財政調整基金は、約50億円になりました。もはや茂原市は第二の夕張と言われるような状況では全くなく、市民の皆さんもそこは安心して良いと思います。ただ、二度の合併破たんを経た現在の広域行政（地域住民の生活に密着した水道、消防、ゴミ、医療、斎場）などへの財政負担は、ずっと変わらず、6割以上の負担を続けてきており、少

子高齢化の人口減少時代の中

で、このままで良いのかを考える時期に来ているように思います。

かつては、借金が多かったことを理由に合併を断られた茂原市ですが、今では他町村から頼られる存在となったと言っても良いように思われます。今後茂原市が、より健全な財政を目指していくためには、あらゆる角度からの広域行政の見直しが必至と考えます。これは他町村に対して喧嘩を売っているのではなく、お互いに譲り合い、どうしたらより良い広域行政を目指すことができるかを、一緒に真剣に考えていくべきとの提案です。

この10年本当に色々なことがありました。苦しいことの方が多かった10年でした。これからは、もう少し明るく楽しく仕事ができたら嬉しいと思っております。

「市長が行く」は平成20年7月1日号から掲載が始まり、今号で記念すべき100回目を迎えました！

そこで、過去の記事を振り返り、多かった話題トップ3をご紹介します。

- 第1位 市政や国政、広域などの行政について（約4割）
- 第2位 企業誘致や農業などの産業について（約2割）
- 第3位 財政や災害について（それぞれ約1割）

そのほか「茂原が最高気温？」と題した時事ネタや、「善意の連鎖」と題し、身近に起こった出来事などを綴った記事もありました。

100回にあたり市長にお話を伺いました。

◆印象に残っている回は？

市長・・・やはり土地開発公社の解散や財政健全化について書いた回かな。土地開発公社の解散は本当に苦労したけれど、財政健全化も進められていくからね

印象に残っている回を振り返ると複数回にわたる内容でした。今後も「市長が行く」をお楽しみに！